

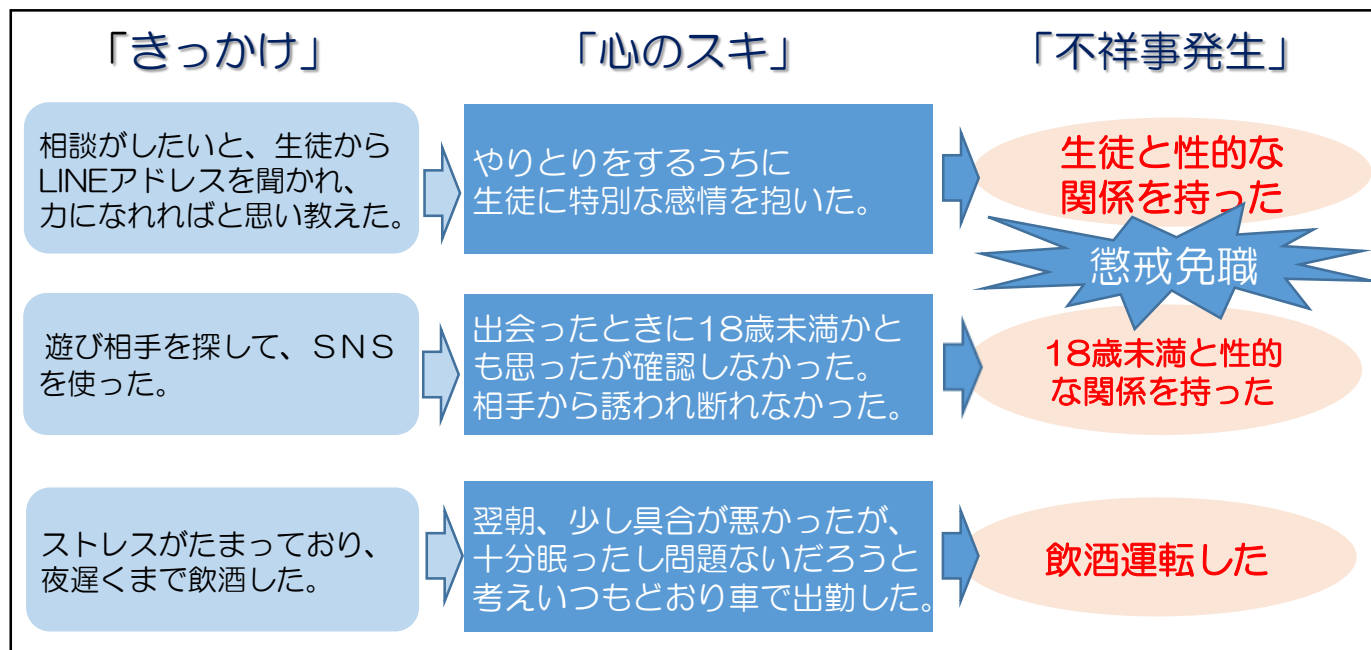
自分の「心」を見つめてますか？

～不祥事防止研修資料～

- 「まさか自分が不祥事を起こすなんて。」懲戒処分となった職員の多くが語る言葉です。
- わざと不祥事を起こす人なんていません。でも、そのきっかけは身近なところに潜んでいます。

『家族・児童生徒・職場の仲間』を悲しませないためにも、また、自分自身を悲しませないためにも、この資料を通じて自分を見つめてみましょう。

I 「きっかけ」は、ふとしたところに転がっています。



II いつの間にか危険ゾーンに足を踏み入れてませんか？

令和元年度、自校の児童生徒とのわいせつ行為により懲戒免職となった教職員のうち、児童生徒と、メールやLINEで私的なやり取りをしていた割合は、「100%」です。



Ⅲ 「依存」による悪影響が出ていませんか？【依存症】

【次のようなことはありませんか？】
 「いつも〇〇のことばかり考えてしまう。」
 「〇〇のために、嘘をついたことがある。」
 etc

事故の原因を聞くと、「のめり込んでやめられなかった（依存症の疑いがあるもの）」場合があります。不祥事をゼロにするには、このような「依存症の危険性」にも眼を向ける必要があります。

自分で自分の欲求がコントロールできなくなり、健全な社会生活に悪影響を及ぼすような場合、「依存症」の疑いがあります。依存症は本人に自覚がないことが多く、周りにも気付かれないことがあります。

依存症は病気です。「あのとき相談していれば・・・」にならないためにも、専門の機関に相談することを考えましょう。

依存症には、大きく分けて、①アルコールや薬物といった物質を原因とする「物質への依存」、②ギャンブルや痴漢・盗撮など、特定の行為や過程に熱中し、のめり込んでしまう「プロセスへの依存」の2種類があります。

ひとりで悩まず「心の健康相談」に電話をかけてみませんか？

専用電話

011(530)6206
 011(563)4241

Ⅳ 教職員の不祥事は周囲に多大な影響を与えます！

本人

- ・懲戒免職となり、生計の道が絶たれました。
- ・被害生徒と接触しないよう、部活動顧問から外されました。
- ・何度も被害者に謝罪しましたが許してもらえず、民事で訴訟中です。
- ・家族の信用を失い、家庭にいても気が休まりません。

学校

- ・保護者や報道機関に丁寧に説明しましたが、学校の信頼は失われました。
- ・生徒指導で一部の子どもが素直に指導に従わなくなりました。
- ・逮捕された職員の仕事を、多忙な中、他の職員でやりくりしなければならなくなりました。

被害者・保護者

- ・学校で顔を合わせるかも、と考えると登校できなくなりました。
- ・全ての教師が信じられなくなり、疑いの眼で見えてしまうようになりました。
- ・成人してからも当時の様子がフラッシュバックし、体調が悪くなります。
- ・苦しんでいる子の心情を考えると、親としてつらくなります。

V 心のブレーキを複数持ちましょう！

高い倫理観	「教育に携わる者」として、恥ずかしくない行動を。
相手への思いやり	相手を認めることで、自身の行動も変わります。
周囲とのつながり	「迷惑をかけたくない」という気持ちが、抑止力になります。
心身の健康	弱っている時には危険回避能力が低下するもの。自身の状況を把握することも大切です。
職場はワンチーム	あなたの適切な言動が、チームメイトである同僚職員の心のブレーキにつながります。

常に心に留め、実りある教職員人生を送りましょう